

令和元年度 地域懇談会 報告書

地域名	柏市富里地域ふるさと協議会
日 時	令和元年10月5日（土）午後13時15分～14時30分
場 所	富里近隣センター 会議室
参加者	ふるさと協議会役員等 : 9名 地域づくり推進部長 : 1名 富里近隣センター所長代理 : 1名 社会福祉協議会職員 : 2名 地域支援課職員 : 5名 地域づくりコーディネーター : 2名 合計 : 21名
次 第	別紙のとおり
意見交換	<p>柏市職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富里ふるさと協議会は、防災・支えあい関係に今年度は特に力を入れると聞いている。これらを是非各部長にお話ししていただきたい。 <p>ふるさと協議会役員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「担い手不足解消」に向けた6つのキーワードで、「⑥報酬を出す」については賛否両論あったとのことだが、報酬は市が出すのか。 <p>柏市職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あくまでもふるさと協議会の中で出すか出さないかという意味合いで、市ではない。そういう解消策もあるかということ。 <p>ふるさと協議会役員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市が多少でも出さないといけないのではないか。 <p>ふるさと協議会役員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その議論の前に皆さんに承知しておいてほしいが、本ふるさと協議会の役員へはふるさと協議会から報酬を一定額お出している。 <p>ふるさと協議会役員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、市から報酬を出す予定や計画はあるか。

柏市職員

- ・現時点では、市から直接の報酬をお支払いする予定はない。

ふるさと協議会役員

- ・ふるさと協議会は市から助成金をもらっており、富里ふるさと協議会役員への報酬は活動費としてその中から出ている。

ふるさと協議会役員

- ・民生委員は報酬ではなく活動費や実費などの名目で年間いくらか出ているが、それとは違うと認識している。

ふるさと協議会役員

- ・市の助成金の中から報酬として出していることになる。

ふるさと協議会役員

- ・その報酬と「報酬を出す」の「報酬」は、意味合いや定義が違うのではないか。

柏市職員

- ・ここで言う「報酬を出す」というキーワードは、昨年度、市内の20地域のふるさと協議会を4ブロックに分けて議論した中で、担い手不足を解消するための対策のとして出た意見の一つである。あくまでもその際に出た意見を市が6つキーワードとしてまとめたうちの一つであり、市からの提言ではない。

ふるさと協議会役員

- ・「報酬」というと「現金」というイメージもあったので確認した。助成金の中から出ているということはわかった。

ふるさと協議会役員

- ・「報酬を出す」という表現は丁寧ではないと思う。カッコ付けで、「報酬を出す（各ふるさと協議会に出している助成金から流用する）」など、ある程度の配慮をした表現をしないと、「報酬をもらえるのか」「給料もらえるのか」と曲解する人間がいるかもしれない。

ふるさと協議会役員

- ・各町会やふるさと協議会が担い手不足の解決に当たって話し合った中で書き出したことで、「報酬を出したらいいのではないか？」ということをお互いふるさと協議会役員同士で話したことである。

ふるさと協議会役員

- ・人件費を出すという表現で理解したが、この記述は誤解を生むと思う。

ふるさと協議会役員

- ・この表現は各ふるさと協議会から出た意見であり、市が考えたことではない。

ふるさと協議会役員

- ・だが、この資料は市が作ったものだ。

ふるさと協議会役員

- ・この文言は皆さんからの意見を市がこのように資料としてまとめたものである。富里ふるさと協議会では報酬を出しているのだから、これはそのような制度がないふるさと協議会から出た意見である。

ふるさと協議会役員

- ・承知した。ただ出処は助成金であるのであれば、「報酬」という表現がふさわしくないと考えている。

柏市職員

- ・それでは、次に資料を更新する時には誤解のないような文言を考えたい。

ふるさと協議会役員

- ・富里ふるさと協議会は7町会から成り、各町会長がふるさと協議会の会長、副会長を務めており、会長の任期は2年である。組織の中には地区社協部会があり、その部会長がふるさと協議会の副会長も務めている。
- ・ふるさと協議会役員に女性が一人もいないので、地区社協部の副部会長である山名さんにも執行役員会のメンバーになってもらっ

ている。それが基本の組織であり、富里ふるさと協議会は各町会のもとに成り立っているということである。

- ・防災については、ふるさと協議会にとっては避難所の問題が一番である。近隣センターも台風15号で浸水の危険があったが、実際過去に浸水したことがあった。それを踏まえて、豊町と富里町のふるさと会館を町会と協力して避難所として立ち上げた。幸い台風15号の時は避難者は出ず、被害もほとんどなかった。それが実績と経験になったかと思う。
- ・大地震の際の避難所として近隣センターのみでなく、地域の小学校も避難所となる。富里地域のエリア内だと豊小学校と柏第三小学校があるが、両校の校長先生は地域への理解があり、活動もスムーズに実施できている。特に柏第三小学校は各町会や柏市ふるさと協議会連合会からの支援もあり、備品整備も進み、避難訓練も2度ほど実施している。
- ・ただし、もし今後理解のない校長先生が赴任した時のために、今の良好な関係のうちに覚書を交わしておいた方がよいと考えているので、市にも知恵を借りたい。その背景には、以前避難所と避難場所の違いもわからない校長先生がいらしたことがあり、3. 11の時に柏第三小学校には帰宅困難者が120名ほど避難してきた。体育館の定員は140名ほどであり、ほぼそれでいっぱいになる。その時は地域の避難者がいなかったが、いた場合は体育館に入れなくなる。その当時の校長先生は「溢れたら校庭で寝てください」「教育委員会からは1週間で授業を再開しなさいと指示が出ている」とのことで、校舎に入れるとそれができなくなってしまうという考えであった。
- ・そこで市の防災安全課に話したところ避難所に関しては逃げの一手であった。縦割り行政の弊害そのものであると感じた。それを秋山市長に話をする機会があり、縦割り行政の弊害を訴えたところ「そうでしょう。それは私の仕事。」とのことだった。秋山市長が担当部署に手配することを期待しているが、我々地域住民としてはどうなるか不安が残っている。今年の3月の市議会では避難所の件が出ていたが、どのように区割りするかについて行政としても積極的に対応すると回答があった。その後、どの部署がどのように対応しているか市での進捗を聞きたい。我々だけの活動では済まない問題があるので、その点を深堀して行ってほしい。
- ・以前、東京の教育委員会が主催し、台東区の金竜小学校で先生を相

手にHUGを実施したことが読売新聞に載っていた。このことで、防災活動が広がっていくようだった。柏市ではどうか聞かないが、いろいろなやり方が期待できると考える。柏市教育委員会と柏市との間でもそういう話がうまく進展していくことを期待している。また、進展の進捗も聞いていきたい。

- ・今度、私が支えあい会議の代表になったが、今まで2年と少し会議に参加してきた。具体的な支えあい活動はふるさと協議会全体では規模が大き過ぎて実施には無理がある。まずは町会ごとにやろうと考えており、1軒のマンションだけでやろうというケースも出てきている。
- ・各町会では豊町東町会がNPO法人を立ち上げたばかりであり、泉町町会で支えあい隊を立ち上げたという段階である。これが他の町会になかなか広がらない。
- ・そこで、各町会への説得に回り始めたところである。それにあたって、立ち上げのノウハウ、種々の準備、立ち上げ後の継続的なサポートを支えあい推進員も一生懸命やっており、わからないことは社協に聞けばよいが、我々を含めて、社協や市には支えあい会議開催より具体的な指導をしてほしい。
- ・例えば、協力者として登録しても要支援者がおらず1年間何も仕事がないような場合に、協力者のモチベーションを維持するために、何か良い方法はないかということである。行政でわからなければ、わかる人を紹介してもらえそうなシステムを作してほしい。

ふるさと協議会役員

- ・柏市ふるさと協議会連合会の定例会でも話したが、富里ふるさと協議会は担い手不足をあまり気にかけたことはなく、担い手は十分にいる。富里ふるさと協議会は町会長にふるさと協議会の副会長をしてもらっている。いろいろな役員も町会から出してもらい、福祉関係の担当も民生委員から出してもらっているようにしているので、ふるさと協議会としては人員は揃っていて人手不足はないと考えている。
- ・ふるさと協議会の行事や活動は各副会長が町会に戻ってから説明してもらっているので、ふるさと協議会がやっていることは町会内にも知ってもらっていると思う。ただ、住民全員にふるさと協議会という名前や活動が浸透しているかという点、多少のPR不足はあるかもしれない。

- ・「役員の負担を軽くする」ことについては、7名の会長・副会長がそれぞれ担当を受け持って責任者となっており、一人に役割が集中することはない。それと各部員は各町会から一人ずつ出してもらっているため、担い手不足の心配はふるさと協議会としてはそれほどない。
- ・若い方たちとの結びつきは難しいかもしれないが、各町会で工夫していると思う。
- ・子育て支援では二点取り組んでいることがある。一つは子育てサロンで豊小学校、柏第三小学校の児童ルームが午前中空いているので、0歳から就学前の児童を対象に月1回それぞれ開いている。もう一つは子供の居場所を始めたこと。子供食堂が頭に浮かぶと思うがそれはまだ難しく、まずは学校が終わったら子供たちが集まって遊びや勉強に自由に使ってよいという場所を考えている。また、夜遅くなると夜道が危ないのでパンザマストが鳴ったら帰るということにしており、両校の全生徒に活動のチラシを持ち帰ってもらっている。
- ・この居場所は月曜日に開いており、今年8月の最終月曜日の昼には食事で素麺を作ろうということになった。子供たちも調理を手伝うことになり、親子50名ほどが来てくれたことには驚いた。非常に雰囲気も良く、年1回でも実施できたらと考えており、徐々に居場所として上手くいってくれたらと思う。
- ・そのような中で近隣センターの御協力もあり、卓球台を今月2台換えてくれる話があった。

ふるさと協議会役員

- ・豊町東町会の総人口は3,000名ほどで町会加入世帯が2,000名ほどである。
- ・エリア内の豊小学校には町会内の子どもも高い割合で通っているため、町会内のイベントは学校の協力がないとやれない。「若い人・子育て世代とつながる」の中にオヤジの会とあるが、柏第三小学校で実施される地域の運動会では豊小学校のオヤジの会が手伝うこともある。
- ・子供が小学校を卒業すると親も学校から離れるが、親を引き留めておくと子供たちが地域に留まってくれる。豊町東町会には実働部隊として成年部があり、オヤジの会を青年部の予備軍として位置付けているので、子供たちが小学校を卒業する際にはオヤジ会に所属

している親御さんを成年部に引き上げるように働きかけている。そうすればその子供たちも卒業後には地域のお祭りの手伝いをしてくれるようになる。これが続いていけば、担い手不足を解消していけると思う。町会内の活動が全ての世代に繋がることによって円滑に動いていくのではと考える。

- ・私は町会長を務めて8年目だが、世代間の溝が埋まってきていると思っている。誰がまとめるという話になり、全世代が揃うと自ずと方向性が見えてくる。地域の皆さんには感謝している。

ふるさと協議会役員

- ・栄町会は昔からの部落を引き継いで神社を主体にしていろいろな行事を進めている。神輿や山車などを使っており、今は子供が少なくなってきたり、老人が多くなっている。世代を繋ぐには行事から入っていくのが一番早く、声をかけなくてもみんな集まってくれる。そういう仕組みを持っていけば良いと考えてずっとやってきた。
- ・今も子供神輿はあるが、担ぐ子供がほとんどいない。子供神輿自体も大きく2時間も歩き回るので、先日は豊町東町会から子供に参加してもらい、消防団にも助けてもらった。やめようかと思った時期もあったが、一度やめたら二度と立ち上がらない。今までは祭りの時は回る場所には縄を張るなどして町内を練り歩いたが、子供が少なくなって10年以上前にそれはやめて、代わりに提灯を各家庭に配ってお祭り気分を出してる。
- ・子供会は休会となっており、今では1～6年生で5～6名ほどしかいない。子供会を作っても組織として成り立たず、親みんなが役員になってしまうので他の事ができなくなってしまう。それでも神社を主体にした行事には拘っており、楽しくやろうとはしている。

ふるさと協議会役員

- ・通一丁目町会は栄町会に雰囲気似ているところがある。町会のメインイベントは、2月の稲荷神社の初午と7月の香取神社の祭礼で、昔から続くもので手が抜けず、気合を入れている。
- ・今年は子供会が19名であり、段々減っていくので、子供神輿が5～6年後には出せなくなる可能性がある。年寄りが担ぐわけにもいかず、子供の減少をどう打開するかが頭の痛いところである。若い方が手伝ってくれればよいが、それこそ報償を出さないといけな

い。

- ・どこの町会でもそうだと思うが、ゴミ出しルールを守らない人間が増えていることが悩み。通勤路に車、自転車で自分のごみを捨てていく。ゴミ収集当番が2週間ごとに回ってくるが、班長から何とかしてくれと頼まれてしまうので、町会長としては悩みの種である。また、マンションの住人が多いが、古いテレビや洗濯機、ふとんなどをそのまま捨てていってしまい、捨てるには500円の券を買って業者に連絡しなければならないので、それをポケットマネーや町会費用で処理している。ゴミ出しの問題は大きい。
- ・高齢者の支えあいをどういう方向で行うのか。来月19日に町会で10名ほど集めて支えあいの説明会をする。一方で子供の支えあいもあるが、優先度としては高齢者の支えあいをどうやっていくか検討することが、まずは第一と考える。
- ・対象となる高齢者を探す方法とそれをどういう人に担ってもらうか、有料とするかについての議論もあるがそこが悩みである。アクションを起こさないといけないが焦るつもりもない。何かいい知恵があったら教えてほしい。

ふるさと協議会役員

- ・豊町西町会は約800世帯で、集合住宅が90%、戸建て住宅が10%という変則的な町会である。
- ・防災や支えあいの取り組みについては、南柏に築37年・150世帯のマンションがあり、住民自体の高齢化は進んでいるが安否確認や防災関係には真剣で、これまで年1回で計10回実施してきている。
- ・毎回、周辺のマンションの区長に見学を勧めており、そのひとつのカクタス南柏（マンション名）では去年から防災訓練を始め、非常に有効であるとの報告があった。レクセルマンション南柏（マンション名）も昨年から活動を始めたと聞いている。この防災活動が支えあいに繋がると考えており、一昨年から支えあい活動を立ち上げて、ゴミ出しや電球交換に絞って実施していると報告を受けている。最近草刈りは難しい問題が出てきたと聞いている。
- ・町会長は2年目で把握していない面もあるが、町会としては支えあいを考えていく必要があると思う。自分で動けないような一人住まいの高齢者が何軒かあるので町会としても考えないといけないがまだ動けていない。

ふるさと協議会役員

- ・緑ヶ丘町会の大きな問題は町会役員の担い手不足である。行事を手伝ってくれる人の確保も難しい。このことは町会の生い立ちにも関係しており、昭和30年あたりに中央官庁の国家公務員のために売り出した町会内の分譲地に当時30代後半の方が中心に家を建てた。その当時の方が90代ほどで亡くなってきており、ここ5年で15名ほどにのぼる。その後に遺族が住めばよいのだが、空き家や空き地になるケースがあり、それも10～20年間そのままということもある。
- ・他の町会と違い集合住宅は少なく、その分、ゴミ出しのルールは守られている。ベトナム人や韓国人も住んでいるが、特に中国人がルールを守らないので理解してもらうのに問題がある。
- ・町会役員の担い手や活動の協力者がいないことが大きな問題だが、現在では若い方も少しずつは入ってきている。町会の活動を知ってもらうために力を入れているのが、盆踊りや体育祭、餅つき大会や防災訓練などに積極的に参加してもらうようにアイデアを出していることである。行事への参加者も年々増えてきており、特に盆踊りは大勢の方が来てくれている。
- ・ふるさと協議会の体育祭では町会として参加し、優勝を目指して連帯感が生まれている感じがある。それらのイベントを通して町会活動への理解を示し、参加してくれるようになっていくと思う。長期的な展望で5年後、10年後に何名かが町会活動の支援として活動に入ってもらえるようになることを期待している。
- ・支えあい活動は当町会も超後期高齢者が何名かいるので、支えあいは現実に必要であり、町会としても早期に実施したいと思う。支えあい活動実施検討委員会という小委員会を立ち上げて、できることから始めようとしているが、活動の開始時期はわからないので、とりあえず支援が必要な方がどれくらいいるか、支援してくれる方がどのくらい確保できるかなどの実態を把握した上で早急に取り組んでいきたいと私自身も考えており、町会としても望んでいる。

ふるさと協議会役員

- ・地域とは民生委員として関わっているが、担い手不足が地域の大きな課題と思っており、民生委員も成り手がいないので、非常に苦労している。そういった中で「いい雰囲気作り」がまず大事であり、ボランティアをしても団体に入っても雰囲気が非常に大

事だと思う。そこから柏市独自のふるさと協議会を知ってもらい、コミュニティエリアにふるさと協議会があるということを皆さんに知ってもらうことがまず第一だと思う。

- ・各町会の中でいろいろなイベントがあり、ふるさと協議会としてのイベントもあるので、イベント自体のアピールをもっと行った方が良いと思う。商店街にポスターを張るなどあるが、まだ浸透していないので、もっとPR活動がしていきたいと考えている。
- ・富里ふるさと協議会の役員の成り手は安定しているが、他のふるさと協議会は役員が1年で交代してしまうこともあるので運営が難しいと聞いている。富里ふるさと協議会にはベテランの町会長も多く事務局があることでやり易くとても良い状況にあると思っている。
- ・ふるさと協議会と学校との関係は上手くいっているが、ふるさと協議会とPTAとの連携ができていないように思う。「若い人・子育て世代と繋がる」に書いてある南部地域のこずっち会議のように豊小学校と柏第三小学校のPTAと上手く連携したいと思う。学校の先生方とはできているが、父兄の方々とも連携したい。
- ・子供会が少なくなってきたが、柏第三小学校は1,000人以上の児童がいるのに何故か子供会に入会している児童が少ない。他の地域から通っている子供たちもいるが、富里地域の中にも子供たちは大勢いる。
- ・地域と子供会との連携を密にして、親御さんも役員になりやすいようにできないかと考える。負担が大きいのか、ボランティア組織の役員もいろいろと兼務すると動きが大変で、負担軽減をして組織を見直したほうが良いと思う。
- ・子育て事業については、柏第三小学校と豊小学校もスムーズに上手くいっている。
- ・すくすく広場では、調理室で子供たちが自分たちで作ったものを食べたので、お母さんたちも喜んでいて。お母さんに「地域の事業ってどうですか？」と尋ねたら、「いいですね、楽しいですね。」と返ってきた。その後に次回も参加してもらえると聞いたら、「仕事があるので、そういう場合に子ども会があると良い。」と伺った。「そのうち考えていきますか。」ということも聞くので、イベントごとにお母さんに話しかけていきたい。
- ・地域活動などに興味を持っていても地域の中はなかなかわからないと思うので、少しでもこういった活動を知らせてあげたい。興味

を持ってもらえれば、近づいてもらえらると思うので、イベントの際には声掛けをしようと民生委員の中では言っている。課題はあるが富里地域は徐々に進んでいっていると思う。

ふるさと協議会役員

- ・私は事務局長であり、総務と地域づくり推進員の業務に取り組んでいる。富里ふるさと協議会は2万人・5,500世帯・7町会で構成されており、町会はそれぞれに特徴がある。豊町の場合は9割がマンションだが、緑ヶ丘町会は殆どマンションがない。泉町会は200世帯程度である。それらの町会を如何に上手く融和していくかが問題である。
- ・小学校との連携も深めている。富里ふるさと協議会役員は各小学校の学校評議員でもある。ふるさと協議会の総会には校長先生と教頭先生が出席するなどして連携できている。年2回で懇談会をしており、互いに防犯防災について何か協力できることはないかと話をしている。人海戦術でゴミ拾いをしたりで学校でできないことをして、意思疎通が図られた関係であると思っている。
- ・富里ふるさと協議会は他のふるさと協議会と比べて行事が非常に多く、新しい行事を増やせないで、新しいことに取り組めない。それに伴いややマンネリ化しているところもあるため、各行事内容の充実を図りたいと考えている。そのために外に出たときは、他のふるさと協議会の行事の内容を聞いたり見に行ったりもしている。

ふるさと協議会役員

- ・今年、泉町会内で元々戸建て住宅であった敷地に2棟立て続けに3階建てのアパートが建設された。
- ・1棟目は1階を居酒屋にするとのことで、近所の方々が「町会長に話してほしい」と言うので、居酒屋を入れず全て住宅にしてもらい、ゴミ置き場も設けてもらった。
- ・もう1軒のアパートでは、隣の部屋との間の仕切りが2、3階はできないとのことだったので、設計し直してほしいと伝え、ひと回り小さな住宅にもらった。
- ・これらの交渉事に町会長として取り組むことは結構ストレスであり、近所の方々は喜んでくれたが、やっている私は半分ヤクザの様なことをしていたと思う。そのような交渉事を地域支援課職員にもサポートやアドバイスを通してお手伝いしてもらいたいと思って

いる。

- ・「ふるさと協議会を知ってもらおう」について、周りの方にふるさと協議会のことを知ってもらおうことは、ふるさと協議会に属している各町会の責任だと思っている。町会がふるさと協議会の行事に力を入れれば、町会員に自然とそれが知れ渡る。
- ・「ふる協」という名前が、昭和50年ごろにできた「ふるさと協議会」自体のことであることを富里地域の方々には分かっていると思うが、「ふるさと協議会を知ってもらおう」と言っている割には、「ふるさと協議会」という名前自体の意味がわからない」「何をする会かわからない」ということがあると思うので、もっと分かりやすい名称に変えることや、ふるさと協議会をこうしていきたいなどの地域支援課の考えがあれば、今後の活動に活かしていきたいと思っている。

柏市職員

- ・交渉事について、市民のことであり市が直接協力できないが、その際は「地域協働を考える会」に相談してもらうのもよいかと思う。

柏市職員

- ・3月議会での防災関係の取り組みについて、防災安全課は地域との役割分担を整理すること考えている。

ふるさと協議会役員

- ・今年度の地域づくり推進委員研修では、ふるさと協議会を啓発するためのポスターづくりに取り組んでいる。

柏市職員

- ・ふるさと協議会の名称については、私が課長の間には変更しないと思う。
- ・ふるさと協議会啓発用の紙うちわを作る際に、ふるさと協議会のイメージを変えようと思い、アルファベットで「FURUKYO」の文字を入れることも提案したが、柏市ふるさと協議会連合会の定例会に出席された方々からは、「それでは伝わらない。」とのことで却下を受けた。
- ・今は「ふるさと協議会」という名称をきちんと伝えていこうと考えている。「ふるさと協議会」という言葉自体は古いけれども、当課

としてはいつまでも大事にしていくべき名前だと思っている。

ふるさと協議会役員

- ・町会内でも「ふる協」ではなく「ふるさと協議会」としっかり言うようにしている。
- ・支えあい活動が上手く早く進んだきっかけは、自主防災組織があって、支えあいの運動につながっていることが要因。自主防災組織を始めた時の活動は「安否確認」であり、その活動が支えあい活動に引き継がれていった。
- ・数年間は「自主防災組織をやってほしい。」と行政から言われていたが、今はどうなっているのか。活動としてはK-netに引き継がれていっているようなので、もっとしつこくアピールしたほうがよいと思う。支えあい活動が上手くいっている地域は、K-netと結び付けている。
- ・富里地域の子供会が無くなった原因のひとつに学区の問題ある。以前は豊町西町会の子供は全て豊小学校に通っており、当時は子供たちも大勢行事に参加していた。子供たちが豊小学校以外の小学校にも通うようになってきてから、夏祭りなどの子供の参加者数が減ってきており、調べたところ近くの旭小学校や旭東小学校に半分ほどの子供が通っていることがわかった。現在は1年生が12名と少なく、子供会内での役員を決めるにも負担が大きくなってしまう。少子化してきているので、本来の学区の小学校に通ってもらったほうがよいと思うので参考にしてほしい。

柏市職員

- ・学校とPTAの連携についての話がいくつかあったが、今後コミュニティスクールが始まるので、学校と地域はより連携を図っていく必要があると思う。現在の学校評議会に代わって、校長先生以外の方がその代表になって学校の方針を決めていくという仕組みとなる。地域というと必ずふるさと協議会や町会、PTAが入ってくるので、コミュニティスクールでは、地域とPTAが顔を突き合わせて学校の方針について議論することとなる。今までよりも関係性が近く連携も深くなり、連携しないとやっていけなくなるので、避難所に関する校長先生の認識も変わっていくだろうと思っている。
- ・柏市として学区、ふるさと協議会エリア、町会エリアがずれたり分断されていることが問題である。市も教育委員会に言っており、教

育委員会も認識はしている。学区の決め方は「〇〇町会の子供たちが△△小学校に通うと△△小学校のキャパシティが足りなくなるので教室を増やす。」という考え方ではなく、「◇◇学区内に△△小学校とこの子供たちがいる。」という考え方である。学校のキャパシティを考えると、ここで線を引いた方が学校のキャパシティと合うからここで通学路を変えるというのが基本なので、学区とのエリアの違いの問題が起こっている。コミュニティスクールが始まると、地域と学校の関係性が分断されていくので、教育委員会は通学区をどう考えていくかが問題となっていくだろう。

- ・ P T A とふるさと協議会の意見交換会で、「こずっち会議」という名前を付けて今年度は手を挙げた地域で実施することになっており、好評ならば来年度以降も続けることを考えているので、その際は手を挙げていただきたい。
- ・ 町会からの支えあいの相談は社協で乗っていただくのがよいと思う。

社会福祉協議会職員

- ・ 支えあい推進員と共に寄り添いながら、2025年問題や高齢者社会を迎える中で一緒に考え、社協は具体的な活動も必要だが支えあい活動の機運を高めることを中心に置きたい。担い手問題や働き方改革に伴って、お父さんが地域に目を向けてくれたら良いと思っている。
- ・ 空き家について、どのような活用ができるのかできないのか、様々な制度の問題があり、手を下しにくい部分だが、社会資源として空き家の活用もあるかと考える。
- ・ 本日の資料については、3年後や5年後にフィードバックして振り返ることができる資料だと思うので、町会とも一緒に話をしていきたい。

柏市職員

- ・ 町会の考えも聞いたので、市も社協と情報交換していきたいと思う。

ふるさと協議会役員

- ・ 地区懇談会に関連した話だが、緑ヶ丘町会内に転居されてきた若い方々が自ら「町会に加入したい。」と、町会長宅や班長宅に来る

	<p>ことがある。空き地に家が建つ場合などに、不動産会社や建設会社からも新しい入居者の町会加入に関する問い合わせがある。市の指導なのか町会加入の働きかけをしてもらっているおかげで、入居者や会社から出向いてくることはこれまではなかった。市が本格的に加入促進に取り組んでくれていることを感じたので感謝している。町会加入を申し出て来るということは、それだけ町会に入らなければならないメリットを感じているからだと思う。そういう方は町会活動にも協力してくれるので助かっている。改めて地域支援課に感謝する。</p> <p>柏市職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感謝の意を伺うことは滅多にないことなので、担当にとっても励みになる。
<p>いただ いたご 意見の まとめ</p>	<p>(地域の御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各町会の事情や状況が異なり、それぞれの町会の苦労や力を入れていることを伺えた。 ・担い手不足については、ふるさと協議会よりも町会として苦労されているということを伺った。今後も地域支援課として町会への加入促進などに取り組んでいく。 ・ゴミ関係では、通一丁目町会で不法投棄で苦労されているというお話があった。不法投棄などの問題があった際は、環境サービス課までお問い合わせいただければと思う。 <p>(柏市職員の感想)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校やPTAとの連携については、今後市としても力を入れていくので、地域支援課としても教育委員会との関係を意識していく。 ・支えあいについては、引き続き社協と情報交換し協力していく。